

都道府県・ 指定都市番号	43	都道府県・ 指定都市名	熊本県	研究課題番号・校種名	2 (4) 中学校
				領域名	ESD
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) ESD を学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	くまもとけんきくちしりつきくちみなみちゅうがっこう 熊本県菊池市立菊池南中学校 (444人)				
所在地 (電話番号)	熊本県菊池市隈府 833 番地 (0968-25-2239)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://www.city.kikuchi.lg.jp/school/kikuchiminami-jhs/				
研究のキーワード <input type="checkbox"/> 縦と横のつながり <input type="checkbox"/> 自主性 <input type="checkbox"/> 地域との連携 <input type="checkbox"/> 未来創造 <input type="checkbox"/> 関わり					
研究結果のポイント <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間に委員会活動 (『未来創造タイム』) を位置づけたことによる，地域社会の課題解決に目を向けた探究的な活動サイクルを展開できた。 ○ あらゆる教育活動に ESD の視点で取り組んだことで，子供たちが「学ぶ意味」を理解し，主体的に取り組む姿が見られるようになるとともに，「身に付けさせたい能力・態度」の育成につながった。 ○ 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進が図られたことにより，委員会活動や授業で取り組む際のゲストティーチャーの確保や外部団体の活用が円滑になった。 ○ 生徒や教師のアイデアを活かした活動により，生徒の主体性が育ちリーダーの育成につながった。 					

1 研究主題等

(1) 研究主題

持続可能な社会づくりを目指し行動する生徒の育成

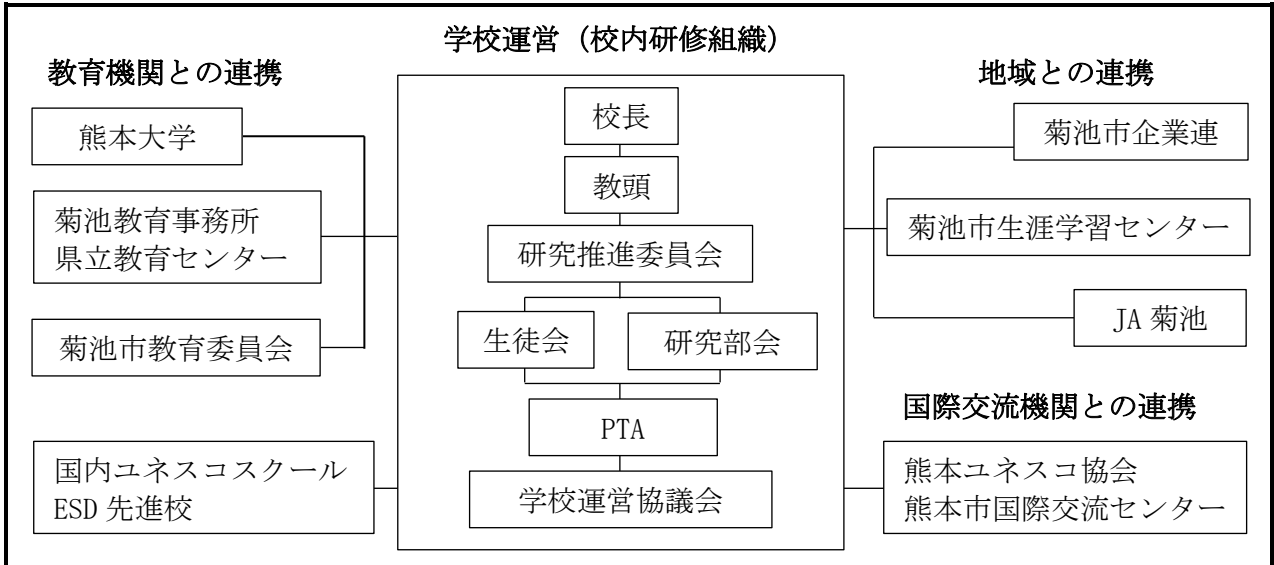
(2) 研究主題設定の理由

本校は、「生きる力を培い未来を創造する生徒の育成」を教育目標に掲げ，自分に誇りを持つ生徒の育成に取り組んでいる。学校行事や部活動に熱心に取り組む生徒が多く，以前から人権教育を基盤とした学校づくりを行っており，人と人をつなぐ取組を大切にしてきた。生徒会活動においてもボランティア活動に意欲的であり，委員会を中心としてリサイクル活動（アルミ缶とペットボトルキャップ回収）を年間通して行い社会貢献につなげている。このような生徒たちの様々な活動は，持続可能な開発のための教育（以下 ESD）に直結するものであるが，生徒たちは自分にどのような能力や態度が身に付いているのか実感していないのが現状である。

また，校区内には，豊かな自然，史跡・伝統芸能・産業等の豊かな地域教材や，それに関わる地域人材が豊富にある。これらを積極的に活用しながら，人・社会・自然との関係性を学ばせ，意識付けることにより，「関わり」「つながり」を尊重できる生徒を育成できると考える。さらに，生徒が主体的に行っている様々な活動を体系化することにより，自分たちの活動が持続可能な社会の創り手になるための行動であることを認識させれば，価値観の高揚と行動力を身に付けさせることができる。

そこで，ESD の視点に立った課題解決能力を高める学習活動を行いながら，持続可能な社会づくりに貢献できる能力や態度を身に付けさせるために，研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和 元 年 度	<p>4月 研究組織の発足 ESD 校内研修① (ESD, SDGs の理解) ESD 学習 (ESD の理解)</p> <p>5月 NIE 研修 (熊本日日新聞社 松村和彦様, 鹿本商工高等学校 岩崎隆尋様) ESD の視点を取り入れた委員会活動の取組開始</p> <p>6月 ESD 校内研修② (講話 文部科学省 藤野敦調査官) ESD 校内研修③ (研究を通して目指す生徒の姿) 未来技能士育成ステップ事業 (2年)</p> <p>7月 ESD 校内研修④ (ESD カレンダーの作成)</p> <p>8月 ESD 校内研修⑤ (講話 北部中学校 田中隆太郎教諭)</p> <p>9月 ESD 校内研修⑥ (各部会での取組検討)</p> <p>10月 ESD 学習 (新聞で SDGs) 高齢者サポート事業 (3年) 学習発表会へ向けた取組 (ESD の視点を取り入れた総合的な学習) 熊本市立北部中学校 ESD 研究発表会への参加</p> <p>11月 授業公開 (菊池市教育委員会指定学力向上研究発表) 3年社会</p> <p>12月 ESD 校内研修⑦ (取組の振り返りと来年へ向けて)</p> <p>1月 ESD 校内研修⑧ (ESD カレンダー見直し, 講話 熊本大学 宮瀬美津子 教授)</p> <p>1月 ESD 校内研修⑨ (授業研究会, 講話 奈良教育大学 中澤 静男 准教授)</p> <p>3月 ESD 校内研修⑩ (今年度の総括と次年度へ向けて)</p>
令和 2 年 度	<p>4月 ESD 校内研修① (研究組織についての検討及び再編, 理論研修) ESD 校内研修② (ESD の視点での授業づくり) 及び研究授業の開始</p> <p>5月 ESD 校内研修③ (ESD カレンダーの検討)</p> <p>6月 ESD 学習 (1年「ESD・SDGs の理解」, 2・3年「My SDGs」) ESD 校内研修④ (講話「SDGs ワークショップ」 JICA デスク熊本 尾上香織国際協力 推進員)</p> <p>ESD 校内研修⑤ (「身に付けさせたい能力・態度及び目指す生徒の姿」の検討) ESD の視点を取り入れた委員会活動の取組開始</p> <p>8月 ESD 校内研修⑥ (委員会全体計画と活動計画の検討及び作成)</p> <p>9月 ESD 校内研修⑦ (学年の取組の検討)</p> <p>10月 ESD 学習② (全学年「Let's Try SDGs」)</p> <p>11月 ESD 校内研修⑧ (オンライン講話「ESD の授業づくり」 奈良教育大学 大西浩明特任 准教授)</p> <p>学習発表会へ向けた取組 (ESD の視点を取り入れた総合的な学習)</p>

令和2年度	11月	NIE 公開授業（授業研究会 熊本日日新聞社 伴哲司様，三角愛子様）
	12月	3年生および1年生の学習発表会実施
	2月	「令和2年度研究指定校事業研究協議会」での研究発表 リーフレットの作成（協力者，県内全中学校への配付） ESD 校内研修⑨（講話「カリキュラム・マネジメントの視点での指導助言」熊本大学 太田恭司シニア教授） ESD 校内研修⑩（講話「本校研究への指導助言」熊本大学 宮瀬美津子教授） ESD 校内研修⑪（講話「今後のESDの取組について」 福岡教育大学 石丸哲史教授，奈良教育大 中澤静男准教授）
	3月	ESD 校内研修⑫（今年度の総括と次年度へ向けて）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 教育課程の工夫
ESD の視点で学校行事や学習内容，委員会活動等を見直し，「教材のつながり」「人のつながり」「地域とのつながり」を持った学びの場を展開できるようにする。
- ② 能力・態度の育成
学ぶ意義や価値を見出すことで授業での学びの質を高め，キャリア教育の視点と共に持続可能な社会づくりに貢献できる能力や態度を育成する。
- ③ 評価の充実
PDCA サイクルにおける評価を充実し，振り返りの中で自己の成長やその要因を明らかにして，次のステップにつながるサイクルを確立する。

(2) 具体的な研究活動

- ① 教育課程の工夫
 - 総合的な学習の時間を中心に据え，各教科の学習内容と関連する SDGs を見える化した「ESD カレンダー」を作成し，教科横断的な学習や教科の学びの質や効果を高めるためのカリキュラム・マネジメントを行う。
 - 総合的な学習の時間に委員会活動（『未来創造タイム』）を位置付け，縦割り集団での探究的な活動を行う。また，放課後の委員会活動（20分）で話し合い，未来創造タイム（50分）で活動し，生徒集会や学習成果発表会で発表するというサイクルを確立する。
 - 外部講師の発掘や招へいがスムーズになるように，地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進を図る。
 - 委員会活動（縦のつながり）と各学年の総合的な学習の時間（横のつながり），人権学習（全体のつながり）を組合せ，縦・横・全体のつながりを重視した教育課程を編成する。
- ② 能力・態度の育成
 - 各教科の授業で「SDGs との関連」や「持続可能な社会づくりのための構成概念」，「身に付けさせたい能力・態度」を意識するなど，ESD の視点での授業づくりに取組み，学習指導案（熊本版学習指導案『学習構想案』）に明記するとともに，全職員が最低1回の研究授業を実施する。
 - 各委員会（縦のつながり）の年間計画（『全体計画』）と各活動の詳細計画（『活動計画』）を作成し，その中に「SDGs との関連」や「持続可能な社会づくりのための構成概念」，「身に付けさせたい能力・態度」を明記し，意識付けを図る。また，生徒たちのアイデアを生かし将来の街づくりにつながる取組を行う。
 - 各学年（横のつながり）の総合的な学習の時間で，生徒たちがテーマを決めて探究的な活動を行うことにより能力・態度の育成を図る。
- ③ 評価の充実
 - 学校教育目標とESDで身に付けさせたい能力・態度を関連付け，具体的な生徒の姿を示し，教師と生徒が目標設定をしやすくする。

- 学校行事や人権学習など、教育活動後に「身に付けさせたい能力・態度」についてアンケートを実施し自己評価をさせる。
- ESD の成果検証のために学校全体や同一集団の比較のための同一項目のアンケートを定期的に実施し分析する。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 総合的な学習の時間に委員会活動（『未来創造タイム』）を位置付け、地域社会の課題解決に目を向けた探究的な活動サイクルを展開したことで、ふるさとに目を向け社会に貢献しようとする生徒の姿が見られるようになった。
- あらゆる教育活動に ESD の視点で取り組んだことで、子供たちが「学ぶ意味」を理解し、主体的に取り組む姿が見られるようになるとともに、「身に付けさせたい能力・態度」の育成につながった。また、意識調査の結果も概ね上昇した。

意識調査（全校生徒対象）	I R2.1	II R2.6	III R2.12	I IIIの比
① 学校は楽しいですか。	88.5	88.9	89.3	+0.8
② みんなで何かをするのは楽しいですか。	92.0	92.9	93.9	+1.9
③ 授業に主体的に取り組んでいますか。	84.7	90.1	90.0	+5.3
④ 授業がよく分かりますか。	82.0	87.2	83.2	+1.2
⑤ 他者の意見を踏まえてより良い意見を考えていますか。	74.7	83.0	80.8	+6.1
⑥ 身の回りの出来事を様々な側面や立場から考えていますか。	76.4	79.9	83.2	+6.8
⑦ 地域のことに進んで参加していますか。	43.1	37.7	43.6	+0.5
⑧ みんなの役に立つ行動をしようとしていますか。	75.7	76.1	80.0	+4.3

- 校区の企業、商工会、元学校評議員等で構成される学校運営協議会を設立し、本校在籍の地域協働活動推進委員を活用するなど、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進が図られ、委員会活動や授業で取り組む際のゲストティーチャーの確保や外部団体の活用が円滑になった。
- 生徒や教師のアイデアを生かした活動により、生徒の主体性が育ちリーダーの育成につながった。
- SDGs の視点や他教科との関連を「見える化」した ESD カレンダーを作成したが、教科間のつながりを可視化したものに発展させる必要がある。また、一部の教科間では教科横断的な授業を実現することができたが、さらに発展させる必要がある。
- 「身に付けさせたい能力・態度」は自己評価によるものがほとんどであったため、その検証方法や手段にはさらに工夫が必要である。
- 校区の小学校と連携しながら、地域で総体的に取り組んでいく必要がある。
- ゲストティーチャーとの調整が難しい。特に、仕事をされている方々には、時間を作ってもらわなくてはならない。また、打ち合わせの時間の確保も課題である。

4 今後の取組

- 総合的な学習の時間に設定した委員会活動（『未来創造タイム』）の取組を継続する。
- 身に付けさせたい能力・態度を見直すとともに、各項目について段階的な評価規準を作成し、ルーブリックによる評価を取り入れるなど評価の充実を図る。
- 生徒が校外に出て、地域の方々に自分たちの取組を発信したり SDGs を広めたりする場を設定する。
- ESD カレンダーの教科のつながりを明確にし、教科横断的な授業に取り組む。